

# 近江の地酒もてなし普及促進協議会 結果概要

## 開催日時、場所

令和7年9月4日(木)10時30分から 11時45分  
滋賀県庁合同庁舎7-A 会議室

## 参加委員

別紙出欠表の通り

## 次第

### <開会>

会長あいさつ

・GI「滋賀」の登録や、ユネスコ無形文化遺産の登録など、素晴らしい冠をいただいている。年間2回の会議なので深入りできない部分も多いと思うが、滋賀の地酒に関わらず、素晴らしい素材がたくさん残っているので、引き出して皆さんに伝えていくことは大事なことで、ぜひ協力をお願いしたい。

委員による自己紹介

### <議題>

議題(1) 各団体の令和6年度の実績内容、令和7年度の実績予定

#### <令和6年度の実績内容の報告>

##### ① 滋賀県酒造組合

- ・家庭向けに、コラボ純米酒(720ml)の販売。また、10月の滋賀酒推進月間に参加いただける飲食店にはコラボ純米酒(1.8ℓ)とポスターを200店限定で配布。
- ・10月13日(日)に浜大津で「秋の大お酒日和」を開催。

##### ② 滋賀県小売酒販組合連合会

- ・10月に甲賀の地酒9蔵による「はしご酒」の実施。(13回目)
- ・コラボ純米酒の販売協力。
- ・米原で開催された「出張!お城 EXPOin 滋賀・びわ湖」にて地酒の販売に協力。
- ・ここ滋賀で開催されたチーズに合う効果の地酒啗酒会に協賛。

##### ③ 株式会社エスサーフ(欠席)

- ・コラボ純米酒の展開を実施。業務用1.8ℓ200店舗、家庭用720ml店頭販売3000本。
- ・年間の販促企画の中で、季節商材を提供。秋のひやおろし、年末年始のしぼりたてに加えて、年末に頒布会企画を実施。

④ 滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合

- ・10月15日に大交流会事業を実施し地酒の魅力をPRした。

⑤ 一般社団法人滋賀県調理師会

- ・調理師会の総会や役員会などでも日本酒に合う料理の開発などの報告を実施。各店においても銘柄に合う料理の紹介などを行っている。

⑥ 一般社団法人日本ソムリエ協会

- ・滋賀支部で年4回例会を実施しているが、うち2回を日本酒に関する内容で実施した。全国の会員とともに比較テイastingなどを行った。
- ・6月に琵琶湖ホテルで「湖国滋賀の郷土料理 鮎寿司・えび豆とGI 滋賀酒」というテーマで、郷土料理とのペアリングを滋賀酒でお楽しみいただき、大変好評であった。

⑦ 滋賀県中小企業団体中央会

- ・例年実施している役員会、県大会、青年中央会、交流研修会において地酒で乾杯を実施。

⑧ 幡委員

- ・月1回第3日曜日の午前中に浜大津のこだわり朝市が開催されており、小川酒店のスタッフとして手伝い。
- ・毎日新聞の滋賀県版コラム「今日もよいお酒を」の連載に月1~2回掲載して、滋賀の酒にまつわる内容を発信。

⑨ 滋賀大学教育学部

- ・1回生授業「環境教育概論」内で環境こだわり米のみずかがみの田植え、稲刈りなどの体験を実施し、お米は食べるのと、北島酒造に酒造りを依頼。(酒蔵見学も実施)
- ・滋賀大学の彦根の学生も含めて参加する「琶(は)ぐくみプロジェクト」では、酒造体験だけでなく、販売なども経験を積んでいる。

⑩ 滋賀県立大学日本酒プロジェクト(欠席)

- ・2024年「湖風」のお披露目を滋賀県立大学看護棟学生食堂で実施。
- ・岡村本家や月桂冠での見学、近畿農政局生協府県連意見交換会での活動内容の発表・報告等を実施。

⑪ 滋賀県

- ・多く人が集まるイベントなどに積極的に出店。エスサーフ様主催の利き酒商談会や、「今津てつどうマルシェ」をはじめ、そのほか多数のイベントで試飲ブースの出店。
- ・12月には「伝統的酒造り」ユネスコ無形文化遺産登録を記念して、シールを作成。
- ・2月には中日新聞にコラムを掲載、3月には近江の地酒のPR動画(15秒版・90秒版)の制作を行った。この動画は大阪・関西万博のEXPOアリーナ「Matsuri」で放映(不定期)されている。

- ・びわ湖材を使った一合升の制作や、おもてなし推進店向けセミナーの開催などを実施した。

(松瀬会長)

各団体で様々な事業をしていただきうれしく、ありがたく思う。

ソムリエ協会の田崎真也さんの登場などはとても影響力があると思う。

皆様が取り組んでいただいている内容が一般の方に伝わるのは難しい部分もあるが、どのような形で伝わるように持っていくのかを考えてやっていきたい。

### <令和7年度の取組予定の報告>

#### ① 滋賀県酒造組合

- ・大阪・関西万博でセミナー試飲会(6月)、関西パビリオンにて展示試飲会(8月)を実施。
- ・ALL SHIGA30 蔵コラボ純米酒(720ml)を9月19日から販売予定。
- ・滋賀酒乾杯プロジェクトとして、10月4日に Youtube にて生配信し、19:30に県下一斉「滋賀酒」で乾杯を予定。また5日には琵琶湖ホテルで「滋賀地酒の祭典 in 大津」開催予定。

#### ② 滋賀県小売酒販組合連合会

- ・9月に甲賀市商工会はしご酒実行委員会主催による第16回こうかはしご酒フェスティバルを実施予定。130枚限定販売で完売済み。
- ・10月には乾杯プロジェクトのコラボ純米酒の販売協力。
- ・11月には滋賀の酒セミナーの開催予定

#### ③ 株式会社エスサーフ

- ・年間を通じて販促活動を行っている。春先からは新酒・にごり酒のチラシを作成し展開。
- ・4月16日には飲食店や酒販店に向けたきき酒商談会を実施。
- ・暑い夏の企画としてオリジナル商品の展開で辛口セレクトを販売。
- ・今回最後となる「滋賀酒乾杯プロジェクト 30 蔵コラボ酒」の販売。

#### ④ 滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合

- ・組合員の各施設で地酒の飲み比べプランなど積極的にお客様に提供するように努める。

#### ⑤ 一般社団法人日本ソムリエ協会

- ・3月に実施された「近江の地酒ペアリングセミナー」の講師として、ソムリエ協会の有藤滋賀支部長が努めた。
- ・滋賀支部例会では「発酵テロワール」というテーマで開催。近江牛 味噌漬、日野菜、酒粕と滋賀ゆかりの和洋酒5種類で滋賀の魅力を発信。

- ・入門レベルとしての基礎知識の習得を目的とした「J. S. A. SAKE 検定試験」を開催。(年2回開催しており現在応募受付中)
  - ・日本酒と焼酎に特化した検定試験「J. S. A. SAKE DIPLOMA 認定試験」を年1回開催。
- ⑥ 公益社団法人びわこビジターズビューロー
- ・滋賀県内に 81 店舗ある平和堂各店の「近江の地酒おもてなし推進店」加盟に協力。登録ステッカーの掲出協力などを促していく。
- ⑦ 滋賀県中小企業団体中央会
- ・5月の役員会の懇親会では近江の地酒で乾杯。7月の事務局交流研究会の懇親会では湖魚と地酒のマリアージュを楽しんでいただいた。9月に実施する中央会70周年式典では近江の地酒で乾杯予定。
- ⑧ 幡委員
- ・浜大津こだわり朝市では月替わりで様々な酒蔵に参加いただき試飲・販売を実施。
  - ・毎日新聞の滋賀県版コラム「今日もよいお酒を」の連載に月1~2回掲載。
- ⑨ 滋賀大学教育学部
- ・8月30日、31日に稲刈りを実施。猛暑も考慮して早めに実施。
  - ・これまでは受注販売であったが、今年度から彦根と大津のキャンパスの生協で販売できるようになった。
- ⑩ 滋賀県立大学日本酒プロジェクト(欠席)
- ・2025年度「湖風」お披露目会の開催や酒蔵見学を実施。
  - ・学園祭「湖風夏祭」での酒粕を使用した厚揚げ田楽の販売や、草津駅東口近鉄百貨店での「湖風」試飲販売会を行った。
- ⑪ 滋賀県
- ・万博や国スポなどのビックイベントに合わせたPRに注力している。
  - ・4月には蹴上つつじ一般公開イベントや5月には万博「滋賀の恵みフェア」などにおいて地酒試飲ブースの出店。
  - ・8月には国スポ・障スポに向けて「近江の地酒おもてなし推進店」の210店舗のマップ作成やPR画像を制作。
  - ・2年後にはJRのデスティネーションキャンペーンもあるため、今後も機会をとらえてPRしていく。

(松瀬会長)

大学の皆さんは田植えから日本酒を絞るまでされるという大変貴重なことをされていることについて、学生の反応はどうか。

(久保委員)

まだ1回生ということもあり、お酒は飲めないが、卒業パーティーなどで乾杯できたらと思う。

(松瀬会長)

生協でも売っていただくということなので、学生の方にもぜひ飲んでいただきたい。

(久保委員)

これからどんどん勧めていきたい。

(松瀬会長)

10月1日が日本酒の日ということで、酒造組合でも様々イベントを実施してきている。今年は土日に合わせて10月4日・5日に実施となる。トークショーは決まったか。

(酒造組合土井事務局長)

場所は決まっているが内容は決まっていない。

(松瀬会長)

知事がどうしてもだめだということなので、引き続き調整をお願いしたい。5日の試飲会、料理はなかったか。

(酒造組合土井事務局長)

料理はない。

(松瀬会長)

日本酒だけの利き酒となるが、お時間があればみなさま、よろしくをお願いします。

また平和堂の81店舗加盟はすばらしい。

(目片委員)

これまでも要請いただいていたが登録に至っていなかった。今回説明いただき登録に至るようにつながせていただいた。

## 議題(2) 大阪・関西万博における近江の地酒の魅力発信について

(酒造組合土井事務局長)

「関西のお酒の魅力を感じてみよう」というイベントを大阪国税局主催で大阪ヘルスケアパビリオンで実施された。(6月15日～28日)で関西2府4県のお酒の魅力をセミナー形式で伝えるもの。滋賀県は6月18日・19日で実施し、参加約170名の方に参加いただいた。滋賀県魅力を伝えるとともに、原料米の違いをアピールしながら2日間で6種類を試飲いただいた。

(滋賀県)

5月4日・5日・12日にORA外食パビリオンで滋賀県の農畜水産物や地酒などの魅力を発

信するイベント。地酒は5月12日に試飲いただき数銘柄の紹介を行い、約600名の方に試飲いただいた。

また、9月15日にはメディアセンター内でメディア向けに滋賀の地酒をPR予定。

(松瀬会長)

ほかに大阪・関西万博においてPRを実施された方、実施予定のある方などあればご報告をお願いしたい。→特になし

## <質疑応答>

(幡委員)

「関西のお酒の魅力を感じてみよう」というイベントではどのような層の方が多かったのか。外国の方はいらっしゃったか。

(滋賀県酒造組合土井事務局長)

外国の方は2~3組。北海道など他府県の方もいらっしゃったが、まだ6月だったこともあり関西の方が多かった印象。男女比も同じくらいだったが、若い方は少なかった。

(松瀬会長)

1回に25名の定員で、予約不要であったが、毎回満員になったということが良かった。

## 報告(1) 酒米新品種の開発について

(滋賀県みらいの農業振興課塚本主査)

農業技術振興センターで育成を進めている「滋賀酒85号」について報告する。

- ・今年6月の下旬から猛暑が始まっており、吟吹雪などの収量が不安定となっている。こうした温暖化に対応した新たな育成を平成28年度から始めている。
- ・吟吹雪は1999年に品種登録がされており、20年以上たっている品種。夏の高温が原因で稲の生育が進まない状況。
- ・「滋賀酒85号」は暑さの中でもしっかり育成できているという印象。吟吹雪に替わる品種の開発を目指しており、高温の中でも吟吹雪よりも多い収量となる見込み。
- ・工業技術総合センターとも連携し、日本酒の醸造に適しているかなどの分析なども実施しており、吟吹雪と遜色のない結果となっている。
- ・より早く現場におろしていきたい、という想いで、来年度の一般栽培に向けて現在関係団体と調整中。

## <質疑応答>

(幡委員)

吟吹雪と味との比較のグラフについては、吟吹雪の味を「0」として比較した評価となっているのか。

(滋賀県みらいの農業振興課塚本主査)

そのとおり。吟吹雪の味を「0」としている。

(藤田委員)

以前大中で取材をさせていただいたが、昨年タイムスケジュールを見せていただいたが、今後のスケジュールについて改めて教えてほしい。

(滋賀県みらいの農業振興課塚本主査)

猛暑の影響もあり、生産現場や酒蔵の方々からも一刻も早く品種化を目指してほしい、という声をいただいたので、当初は令和9年度からの開始を見込んでいたが、1年でも加速化させて令和8年度からの一般栽培に向けて進めている。

(藤田委員)

令和8年度からの一般栽培ということは、各蔵で使われるということか。

(滋賀県みらいの農業振興課塚本主査)

量は限られるとは思うが、一般栽培いただいた分をもとに、蔵元のほうで醸造いただく、と考えている。

(藤田委員)

一般栽培の量はどのくらいになるのか。

(滋賀県みらいの農業振興課塚本主査)

想定では県内で10ヘクタール分を賄える分を目指して、関係団体と協議のうえで進めていきたい。

(山本委員)

お米が高騰している中で、新品種の価格帯について、わかる範囲で教えてほしい。

(滋賀県みらいの農業振興課塚本主査)

まだ品種として確立することを進めている段階であるため、価格等については、流通団体等も含めての検討が必要だと思っている。

(山本委員)

原材料が上がってしまうと、販売するハードルも上がってしまうので、ぜひ「滋賀のお酒といえば滋賀酒85号だ」と言えるように開発を進めてほしい。我々もストーリーなどを学んで販売していきたい。

(宇野委員)

ネーミングなどについてもどのように決めるのか教えてほしい。

(滋賀県みらいの農業振興課塚本主査)

蔵元の方に使っていただけるものとして、現在検討しているところ。

(宇野委員)

近江の地酒として親しみやすいものに検討してほしい。

(松瀬会長)

滋賀県酒造組合で今月中に決められるように、現在候補が上がってきている状況。

みなさんに気に入っていただけるように決めさせていただきたい。

(藤田委員)

過去に品種名を一般公募で募集され、子どもの発案だったこともあると聞いているが。

(松瀬会長)

今回は滋賀県酒造組合の蔵元で決めさせていただくことになっている。きらみずきはよく売れていると聞いているので、新しい品種もそうなれるとよい。

(滋賀県酒造組合土井事務局長)

前回の吟吹雪は商工会で決められたと聞いている。今回は作り手で決めさせていただくことになった。

(松瀬会長)

皆様に非常に注目いただいているということは、うれしく思う。来年の秋には良いものが披露できるように頑張っていきたい。

## 報告(2)滋賀デスティネーションキャンペーンの実施について

(滋賀県観光振興局高木副局長)

・DCとは、北海道から九州までのJRグループと自治体が協働で実施する大型観光キャンペーン。滋賀県の令和9年秋の開催が決定。(前回開催は2000年。今回は27年ぶりの2回目の開催となる。)

・JRでは駅や電車内での広告を通じて滋賀を集中的に広報いただく。滋賀ではいつも以上に魅力的なコンテンツや旅行商品の造成を行う。

・コンテンツの強化、旅行業者向けのPR、広報宣伝、受け入れ体制の充実などを実施。

・令和8年10月には全国の旅行業者に直接PRを実施する商談会を実施予定。

・令和9年10月には著名人等を招いたオープニングイベントを実施予定。

・関係団体の皆様には、この機会を生かし、全国に発信できるような魅力的なコンテンツの造成をお願いしたい。

・こうした取組を通じて令和6年の年間入込客数を6000万人という高い目標を設定して進めていくので、皆様におかれても新しいサービスなど積極的な取組と参画をお願いしたい。

<質疑応答>

(松瀬会長)

大変楽しみな企画。皆様におかれても様々な形で御協力をお願いしたい。

<閉会>

・次回の協議会は年明け2月頃に開催予定。